

血液内科を受診している患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	多発性骨髄腫における EBER 陽性例の後方視的解析
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 羽生田 正行
担当科等	血液内科
研究責任者	(職名) 助教 (氏名) 水野昌平
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	非該当
研究の意義・目的	EBウイルス(エプステイン・バー・ウイルス)はヒトに広く伝播しており、ほとんどの健常成人に潜伏感染しています。しかし、伝染性単核球症、バーキットリンパ腫、上咽頭癌、ホジキンリンパ腫、T/NK/B細胞リンパ腫などの悪性腫瘍と関連していることがあります。EBV潜伏細胞ではEBV encoded small RNA (EBER) という特徴的なRNAが発現しています。EBERの発現はリンパ腫の予後とも関わる報告がされています。多発性骨髄腫(MM)でも稀にEBER発現している例があり、予後不良との報告もありますが、症例数も少なく、疾患の特徴、予後や病態はよく分かっていません。今回、当院での多発性骨髄腫患者50例において病理組織標本を使用し、後方視的にEBERを検査いたします。これらの結果と患者さんの情報を解析することによりEBER陽性多発性骨髄腫の病態や特徴を解明いたします。
対象となる患者さん	多発性骨髄腫の患者さん(2009～2017年に診断)
研究の方法	多発性骨髄腫患者さんの診断時にすでに採取した病理組織標本を使用しEBERを染色し、この患者さんの診療情報と共に統計学的に解析します。
研究期間	倫理審査承認日 ～ 2023年1月31日
研究に用いる試料・情報	試料：骨髄などの病理組織標本 情報：骨髄腫患者の治療、治療効果、生存期間など患者情報
外部への試料・情報の提供	なし
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、下記問い合わせ先まで申し出てください。

その他	
問い合わせ先	愛知医科大学 医学部 血液内科 担当者：(職名) 助教 (氏名) 水野昌平 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311 (内線 23540)